

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873900769
法人名	有限会社 ケアサポートいずみ
事業所名	グループホームいずみ
所在地	北宇和郡鬼北町大字永野市98番地1
自己評価作成日	平成22年10月26日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年11月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりの暮らしを尊重し、役割のある生活が出来るように努めている。 ・買い物やディサービス送迎時、利用者様と共に外出し気分転換を図っている。 ・季節の野菜をホームの畑で利用者様と共に育て食材としている。

<p>調理師資格を有する職員が、昼、夕食の年間献立表を事前に立てておられる。事業所の畑で採れたジャガイモやなす、玉ねぎ等も使用して調理されており、調査訪問時は、採れたジャガイモで肉じゃがを作っておられた。主食は、毎回、ご飯・お粥を選ぶことができるようにされている。ご自分で食物を口に運びやすいようにご飯をおにぎりにしている方もあった。外食に出かけた際には、誤嚥の恐れがある方も、好きなメニューを注文して、小さく切って食べる等、楽しまれたようだ。ゆずを炊いたり、味噌作りもされている。</p> <p>4月には、職員一人体制の夜間時に避難訓練を実施された。緊急時の連絡網を用いて職員に連絡を回し、自宅から職員全員が駆け付け、利用者の避難誘導をされた。訓練後には、実際に行ってみての課題点を話し合い「センサー付きのライトを増設」したり、車椅子での移動を考え「ウッドデッキから出るスロープ」を設置された。又、畑沿いを車椅子が通れるほどの幅、舗装されていた。地域の方には、いざという時に協力いただけるように、声かけておられる。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 		<ol style="list-style-type: none"> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームいずみ

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

青木 瞳

評価完了日

平成22年10月26日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「信頼」「笑顔」「自由」の中心に「安心」という基軸を職員間にて周知を図り、共有し実践に努めている。	
			(外部評価) 事業所では「利用者様との信頼関係を築いて、安心しましょう」「お互いの笑顔を見て、安心しましょう」「利用者様が安心して過ごせる自由の場を作りましょう」と理念を掲げて、管理者は「地域との連携をもっと深めるように、地域の方がホームへ訪問しやすいよう、環境作りや声かけをしていきたい」と運営推進会議時に話された。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ホームが企画した行事及び地域行事に参加し交流を深めている。また通院・買い物・散策等にて出会いの場所を広めている。	
			(外部評価) 事業所前のガソリンスタンドや農協の方に、利用者が一人で出られていたら、知らせてもらえるようお願いされている。利用者が外出され、搜索した際には、利用者のご自宅近所の方が知らせてくださったこともある。近くの公園で行われる地域のお祭りを見に行かれたり、事業所にボランティアの方が来て、フラダンスを披露してくださったこともある。事業所の畑の世話をしてくださっている地域の方もいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 利用者様の家族・知人及びホーム周辺地域の人達に対して、認知症症状による対応・資源の活用方法を折りに触れ伝えている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 二ヶ月に1回定期的にご家族・行政・医療・保健・福祉・地域の方々と交え会議を行っている。その時々利用者の状況・ホームの取り組み、及び行政・医療保健福祉・地域からの要望等情報交換を行うことができ、サービス提供に役立っている。</p> <p>(外部評価) 会議時は、地域の方も参加していただき、地域行事を教えていただく等、地域の方と交流する機会になっている。会議の参加者からは、認知症のご家族の介護経験談や、高齢化している地域の実情についてお話しいただいた。会議には、1名のご家族が年間を通じて参加して下さるようになっていく。協力医の協力を得て「感染症予防」等について話していただいたこともある。</p>	<p>さらに、利用者にかかわりのある、いろいろな方に会議に出席いただけるよう、働きかてみてはどうだろうか。理念の実現に向けてのアイデアや協力をいただけるよう、話し合いを重ねていかれてほしい。又、地域密着型サービス事業所の特性や有用性を活かし、地域性等も踏まえて「事業所が地域にできること」等についても、話し合ってみてはどうだろうか。</p>
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には、行政の方々には必ず出席して頂き、介護保険制度の現状及び鬼北町の介護に係る情報の提供を頂いている。また医療においては、町内にある総合病院院長の出席にて、病院療養から在宅介護に向けての協力体制を密にできるよう情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 年2回開催される地域包括支援センター主催の認知症の勉強会に参加し、地域の他事業所とともに勉強をされている。利用者が一人で外出された時の対策として「利用者個々の写真や特徴を書き込んだ書類を準備してはどうか」というアドバイスをいただき、ご家族と相談して準備をすすめておられた。</p>	<p></p>
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 施錠は夜間の防犯及び緊急やむを得ない場合（帰宅願望が増強し単独外出にて安全確保が困難）のみ、ご家族の同意書を頂き行っている。7月8月単発的に単独外出があり危険を伴うことがあったが、それ以降落ち着きを取り戻して。職員研修にて、具体的な禁止行為を学習、理解し拘束しないケアの実践に努めている。</p> <p>(外部評価) 「家に帰りたい」と何度も繰り返す利用者がおられたようだが、ご家族と相談して、自宅に戻ったり、職員がかかわる機会を多く作ることに取り組み、現在は、落ち着いた生活を送ってられるようだ。玄関は施錠せず、居間の入り口に「出かける時は、声をかけてください。心配します。」と書いた貼り紙をされていた。</p>	<p></p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会及び時々のカンファレンスにおいて、「虐待の意味」を学習し相互理解をしている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護に関する研修等学ぶ機会は設けているが、現在制度を必要としている人がいない。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時 契約・重要事項説明書の説明を行い理解を得ている。また 契約等について改定が生じた時は、家族会にて改定説明・了承、文書にて合意を得るようにしている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 二ヶ月に1回家族会を開催している。そして全体における意見交換及び個別による意見・要望を聞き対応している。また家族の時々面会時、要望等を傾聴しケアへ反映している。 (外部評価) 毎月、管理者が利用者の日々の様子や、健康状態を手紙でご家族に知らせておられる。2ヶ月ごとに発行する「いずみたより」は、写真入りの行事報告や今後の行事予定等を載せて、ご家族や親せきに送付されている。又、2ヶ月に1回、日曜日に「家族会」を行い、ご家族間の親睦を図ってもらえるよう取り組んでおられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営について、定例会議及び臨時会議における内容報告を職員に報告している。また職員からの意見を積極的に取り入れ、利用者様の生活状況がより質の高いものとなるように努めている。	
			(外部評価) 毎月のミーティングで、管理者と職員は、意見や提案を出し合い、話し合いながら取り組みをすすめておられる。職員からの提案で「排便コントロール表」を作成して、より適切な支援ができるよう努めておられる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 勤務体制を確実なものとし、組織として就業していることを各自が自覚できるように働きかけている。また職業人としての姿勢・責任、労働に対する喜びが提供できるように取り組んでいく。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 常に職員の心身の状況を把握し、声かけを行いながら対応している。また事業所内の新人研修・現任研修を充実し、対外的には、自己研鑽できるよう研修を積極的に進めている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域におけるグループホーム間の交流は、以前に行政からの働きかけによって開催の機会を設けて頂いた時があったが、一部の事業所より参加拒否の回答があり中止となっている。しかし、代表者にとっては、鬼北町内外の代表者と情報交換を行い、サービスの質向上に向けた取り組みをしている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者様・家族様からの知り得た情報、及び個人の思いや要望の傾聴を糸口とし、何時でも家族と繋がっているという安心感のもと支援に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	(自己評価)	<p>入所前の心身の状態、生活状況をアセスメントし、現状の困り事・これからの不安材料・要望等を傾聴し対応している。</p>
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	(自己評価)	<p>入所前に自宅訪問及び家族等よりアセスメントを行い、グループホームにおいて共同生活が可能か否かの見極めを行っている。またケアマネジャーの介在を含め、他の支援に転換したケースもある。</p>
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>利用者様の目線に立ち、本人の生活意欲の向上が図れるよう役割を見出し、職員と共に生活活動ができるように支援している。また積極的にコミュニケーションを行い、利用者様の声を反映した暮らしとなるように努めている。</p>
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	(自己評価)	<p>面会時、遠距離にあっては便り及び電話にて利用者様の心身の状態・生活状況を伝え、ご家族様と利用者様のパイプ役・支援者として関わっている。「家族の存在」が、身近に感じられるよう努めている。</p>
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	(自己評価)	<p>町内・近隣に住所のある利用者様であり、外出時なじみの人に出会う事が多い為、できるだけ職員と共に買い物等外出しコミュニケーションが取れるように対応している。</p>
			(外部評価)	
				<p>以前、自宅でお華を教えていた利用者の方がおられ、ご本人の希望で、現在もホームで教室をされており、習いに来る生徒さんがいる。ご本人の希望で事業所近くのご自宅に戻って過ごす方がおられ、ご近所の方が戻っている間、見守ってくださっている。ご家族と散髪に行かれる方もおられる。</p>

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一人ひとりの時間を大切にしながら、利用者間の関わりが持てるように職員が仲介者となっている。また清掃活動や買い物等お互いが共同できる場の提供を行い支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了した後も相談等に対応し、必要に応じて支援を行っている。	
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の希望や暮らしを尊重し、役割の提供や時々のお出(自宅まで帰る時もある)・レクリエーション等利用者本位に努めている。	
			(外部評価) センター方式の「24時間生活変化シート」を毎日使用し、利用者個々の様子や言葉を具体的に記録し、ご本人の思いや意向、傾向等を探ることに努めておられる。「気分の変化」等が分かり、行動の原因を探るのに役立っているようだ。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 1年に1回センター方式を活用し、認知力・行動変化・経過等を把握し支援に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの健康状態・生活の有り様・その人らしさを理解し、その人の有する能力に応じて支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 申し送り時のミニカンファレンス、担当者によるケア評価表の活用、月1回のミーティングによって、日々の心身状態変化によるケアプランの修正を行い対応している。また利用者本人との話し合いや状態変化にあっては、家族への連絡を行い要望を取り入れケアプランを作成している。</p> <p>(外部評価) ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映できるよう努めておられる。現在は、状態変化のない方は3ヶ月に1度の見直しとなっている。さらに、介護計画の内容や表現等をご家族に分かりやすいように配慮されたり説明を工夫する等、ご家族の要望や意見を具体的に引き出してみてもどうか。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) センター方式の「24時間生活変化シート」を活用し、気分の変化・行動変化を申し送りの際、職員間で情報共有を行いケア実践を行っている。その情報及び個人々の申し送り事項を基にケアプランの見直しを行っている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 心身の状態変化に合わせて、柔軟にケアの変更を行い統一したケアが提供できるように取り組んでいる。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の店舗状況や運営推進会議において時々の地域行事を把握し、参加できるように努めている。また ボランティアの訪問による演芸、退職した職員の訪問等を受け楽しみ機会が増えている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人・家族の意向に沿ったかかりつけ医の定期受診（精神科・を行っている。また個々人の状態の変化に合わせて、家族と相談し臨時受診を行っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者の以前からのかかりつけ医に続けて診てもらえるよう、職員が同行して受診を支援されている。眼科、歯科、耳鼻科等の専門医の通院には、ご家族が付き添うようになっている。夜間時は、救急当番医に診てもらおうようになっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日常の関わりの中で心身の正常・異常を把握し、正常でないと判断した事について些細な変化であっても看護師へ報告し対応策を検討する。そして、心身の継続的な観察及び適切な処置・介護を提供する。また受診の必要性があれば臨時受診が可能となるように手配している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>病院関係者とは、入院時サマリー及び口頭にて必要な情報を提供している。また時々面会を行い利用者様の状態を確認し、医療者から情報を得ている。また退院の際には、病棟から退院時サマリーの提供を受け、今後の生活に反映できるように対応している。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入所時看取り介護を希望されているご家族について、看取りについての説明・同意を得ている。しかし、利用者様の病状が重度化した場合、ご家族の気持ちの変容を鑑み、状態に合わせて話し合いの場を設け方針を確認しあっている。またかかりつけ医との相談も家族と共にしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>ご家族には入居時に、看取りについて事業所の方針を説明して、医療が必要になったような時には、事業所での支援は、難しいということをお話しておられる。現在「最期まで事業所でお願いしたい」と希望されるご家族もあるようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			救急救命法について研修を行っている。また日々利用者の急変時及びヒアリハット等が起こった場合、その時々に対処法を検討し緊急事態に対応できるようにしている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年2回防災訓練を行っている。実際の避難経路及び対応の分析を行い、施設設備の改良・備品の購入を行っている。また災害が発生した時、周囲の協力が得られるように働きかけている。地震・水害についての訓練にまでは、至っていない。	
			(外部評価)	
			4月には、職員一人体制の夜間時に避難訓練を実施された。緊急時の連絡網を用いて職員に連絡を回し、自宅から職員全員が駆け付け、利用者の避難誘導をされた。訓練後には、実際に試みての課題点を話し合い「センサー付きのライトを増設」したり、車椅子での移動を考え「ウッドデッキから出るスロープ」を設置された。又、畑沿いを車椅子が通れるほどの幅、舗装されていた。地域の方には、いざという時に協力いただけるように、声かけしておられる。	事業所では、今後「地震や水害等の災害を想定した訓練や、避難場所の再確認」を行っていきたいと考えておられた。さらなる利用者・職員の安全・安心に向けて、いろいろな場面を想定した訓練を重ねられたり、いざという時に駆けつけてくれる地域の協力者を増やしていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			利用者様一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや態度にて接している。また目線が同じ位置、或いは、車椅子の利用者様から下方に職員が見える立ち位置になるように配慮している。	
			(外部評価)	
			居間に「馴れ合いの言葉かけ、態度になっていないか、お互いに確認しましょう。」と書いた紙を貼っておられ、職員で意識して取り組めるようにされていた。職員の接遇研修等も行っておられる。カーテンが付いているトイレは、必ず閉めて使用するようになっている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			暮らしの中で、要望や希望に添えるように努めている。また日常生活動作においては、利用者様自身ができることは、時間を要してもストレスがかからない範囲にて見守りを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日々希望に添えるように、利用者様の声を大切にして、一人ひとりのペースに合わせて支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 身だしなみについて時々声かけを行い、個々人の個性が見えるように働きかけている。また2ヶ月に1回美容師の訪問による散髪・カラーリング・美容院への送迎、髻剃り、時々顔剃り及びネイルケアを希望によって行っている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 職員と共に調理に興味のある利用者様にあっては、料理の下準備・味見を行って頂いている。また声かけを行うことによって、共に配膳や後片付け、お盆拭き・テーブル拭きを行っている。 (外部評価) 調理師資格を有する職員が、昼、夕食の年間献立表を事前に立てておられる。事業所の畑で採れたジャガイモやなす、玉ねぎ等も使用して調理されており、調査訪問時は、採れたジャガイモで肉じゃがを作っておられた。主食は、毎回、ご飯・お粥を選ぶことができるようにされている。ご自分で食物を口に運びやすいように、ご飯をおにぎりに行っている方もあった。外食に出かけた際には、誤嚥の恐れがある方も、好きなメニューを注文して、小さく切って食べる等、楽しめたようだ。ゆずを炊いたり、味噌作りもされている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 心身の状態に合わせた食事内容とし、食事の形態・量・温度を考慮している。また水分摂取が困難な利用者様については、ゼリー食の提供を行い水分量を確保している。尚肥満傾向や慢性疾患のある利用者様については、かかりつけ医と相談しながら食事提供を行い、認知力の低下によって、「食べた事」を忘れる利用者様への支援としては、最終の食事が箸を置くまで片付けない工夫をしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後 利用者様の認知・運動能力に応じた口腔ケアを行っている。また夕食後は、個々の義歯を除去し洗浄保管している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々人の排泄パターンを確認しケアプランに位置づけし、オムツ着用の軽減を図っている。排便においては、排便コントロール表にて日々の排便をチェックし、毎日の排便予測時間帯及び行動変化を察知しトイレ誘導を行っている。排尿においては、利用者様の訴え・行動変化・時間毎の誘導によって、トイレ・P-トイレにおける排泄が可能となってきている。	
			(外部評価) 「排便コントロール表」に記録することで、利用者の排便パターンを把握したり、薬の使用等についても医師と相談しながら調整されている。利用者の希望で夜間、紙おむつにされたり、ご家族と相談して「安楽尿器」を使用される方もおられる。「ふたを開けてください」と書いた紙を便器のふたに貼っておられ、それを見てご自分で開ける利用者もあるようだ。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 運動不足・内服薬による副作用・長期にわたる慢性便秘等、便秘になっている経過・成り行きを理解し、一人ひとりの心身の状態に合わせて対応している。線維質の食物・水分摂取・運動・腹部マッサージ・ウォシュレットによる肛門刺激及び摘便及びかかりつけ医と相談し緩下剤の量の調整等を行い対応している。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週3回の入浴としているが、本人の希望があれば毎日入浴ができる。一人入浴及び他利用者様と共に会話を楽しむ入浴ができるように配慮している。また認知の進行・運動機能の低下等によって見守り・部分介助が必要な利用者様が殆どである為、職員が常時関わっている状況にある。	
			(外部評価) 職員は、午前か午後に入浴できるよう利用者に声かけを行い、利用者にお聞きしながら支援されている。一人で入る方や仲の良い利用者とする方もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの睡眠状態を把握し、その時々就寝時間の声かけ、睡眠時間・深さに応じて朝寝・休息が取れるように配慮している。また昼夜逆転がある場合には、できるだけ日中の活動を誘い生活リズムを整えることができるように努めている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 申し送りファイルに薬剤情報を入れている。また受診時症状の変化による薬剤の変更等あれば、一人ひとりの申し送り記録用紙に記入し周知し、確実に服薬できるよう手渡しを行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴を活かし、畑作業・生け花・カラオケを時々行っている。また日常の家事として、朝の清掃・料理の下準備・食器の後片付け・お盆拭き・洗濯物干し・洗濯物たため・新聞折り等、職員と共に行い気分転換ができるよう支援している。特に料理の味見は、喜んでされている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望に沿うよう、職員と共に買い物やドライブを行っている。希望に応じ家族と相談を行い日中自宅へ帰る為の送迎を行っている。最近では、利用者様の意見にて、近隣の焼肉店へ協力を求め、皆と会食を行っている。	
			(外部評価) 利用者と食材の買い出しに一緒に行かれたり「鶏卵センター」に卵を買いに行ったり、事業所は共用部分で通所介護も行っておられ、通って来られる利用者の送迎時、車に同乗して一緒に行かれることもある。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭の一部自己管理は、2名である。一人ひとりの購入既望によって、職員と共に出掛け買い物を行っている。しかし、自らレジで支払う行為には至っていない。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望に応じ家族や必要な箇所へ電話連絡を行い通話ができるようにしている。また郵送された便りを本人に手渡し、また希望があれば便りを郵送している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>共用の空間には、空気清浄機を備え、また廊下・リビング・畳の間に、四季のPATCHワークや工作によって飾り、その時々季節感が味わえるようにしている。そして、玄関・リビングには、利用者様作の生け花を拝見できるようにしている。尚 ホーム裏手にウッドデッキを設置し中央ドア・畳の間から出入りが行え、ベンチ・パラソルを備え自由に空間を楽しむことができる工夫をしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間には、折り紙で作ったコスモスが壁に飾られていた。訪問時、昼食を終えて、テレビの前のソファでくつろいでいる利用者がおられた。居室のネームプレートの横には、造花のコスモスやもみじが飾られていた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>プライバシーを守り全個室としている。畳の間に3人掛けのソファを3個用意し、好きなj時間に横臥し休憩を行ったり、座って互いがテレビを見たりできるように「憩い」の場としている。またリビングのテーブルの上にドライ観葉植物を置き、新聞や雑誌を読む等一人を楽しむ空間を設けている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>利用者様のタンスやテーブル・椅子・お位牌等を持参され、馴染みのある居室にて過ごされている。また時々の面会や行事にて写真や絵画・便り等を壁に貼って楽しめるように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者が、ご家族と旅行に行った時の写真を飾っておられた。テレビの横には、チャンネルと放送局名を貼っておられた。調査訪問時、職員は、体調が優れない利用者と一緒に居室で食事をされていた。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>洗面所に夜間の義歯を預かっている事の伝え・洋式トイレの使い方・単独外出による事故防止等の文言を各ドアに貼布する事を行い、安全確保尚且つ自立した暮らしができるように工夫をしながら、その時々状態に合わせて行っている。</p>	